

高梁市議会だより

第46号
2021年5月



3月定例会

た か は し

我が町の2021年

新型コロナウイルス感染症

令和3年度予算でも予防と経済の両立を目指す

新消防庁舎建設

基本設計と実施設計をどちらも令和3年度内に実施

特集3月定例会

予算審議で見えた

我が町の2021年



工事用の仮囲いが取れて、在りし目の姿を取り戻した旧吹屋小学校
その姿を映すプールは親水公園として整備される予定



吹屋

旧吹屋小学校校舎保存修理と、
プール跡地の親水公園としての
整備費用で1億2828万5000
円、空間演出のための展示業務
委託料2200万円を計上。

令和3年3月5日から24日までの20日間、令和3年第1回3月定例会が開催され、市長からは議案76件が提出され、議案は全て承認・可決しました。また、追加で人事案件2件が提出され、それぞれ同意・適任としました。併せて、議員提出の議案2件を原案どおり可決しました。



令和3年度は「平成30年7月豪雨災害」後に策定された「高梁市復興計画」の次期ステージ、「復旧期」から「復興期」に移行するとともに、新たな「高梁市総合計画」がスタートする重要な年です。

社会保障費の伸びや公共施設の更新、新型コロナウイルス感染症対応などで財政状況は引き続き厳しい状況にあります。「健康都市たかはし」の実現、「住みたい、ずっと住み続けたいまち」実現のため、今後の財政への影響に十分配慮したとする一般会計253億6000万円、特別会計102億3262万円について、主だった議案質疑の内容を紹介します。

令和2年6月に、「ジャパノレッド発祥の地」弁柄と銅（あかがね）の町・備中吹屋」として日本遺産に認定された吹屋地区は、備中松山城と並び、高梁市の観光振興の中で非常に重要な位置を占めています。

令和3年度予算では、吹屋地域関連事業として旧吹屋小学校整備工事費、旧吹屋小学校展示業務委託料、施設等整備工事費が計上されています。

令和3年度で完成する旧吹屋小学校校舎保存修理事業に合わせ、プール跡地を親水公園として整備するという説明がありました。

どのような整備なのか、どう観光振興へつなげるのか、維持管理費は計算しているのか、といった質問があり、管理する住民の負担が増すのではないかと懸念も出ました。

執行部からは、「水面に映る校舎が吹屋の新たな観光スポットになり、観光客が憩える場所になる。また、施設整備により、地域の活力はもとより、移住・



有漢義務教育学校

有漢東・西小学校の統合準備を進める予算452万2000円、有漢義務教育学校の設立に伴う校舎等整備の基本設計費として1738万円が計上されています。

的な学校づくり、また、全国募集や学区の見直し等も選択肢である」と、市長からは、「有漢地域の企業誘致、生活環境整備を進めていく」との答弁がありました。

総務文教委員会の審査では、「有漢の周辺地域からの入学希望者があることも考えれば、他地域への周知も必要ではないか」との提案があり、「今後の準備のなかで取り組んでいく」との回答を得ました。

「有漢義務教育学校」の設立に関しては、市長所信の中で言及がありました。また、準備のための小学校統合に関する議案が出され、校舎などの基本設計の予算が計上されました。

議案質疑では、「せっかく義務教育学校ができて、今後も児童生徒数は減少する見込みである。人口対策と並行して取り組むべきでは」との質問がありました。教育長からは、「魅力

義務教育学校の魅力づくりや独自性については、「公立の学校である以上、有漢地域の児童生徒を受け入れなければならない。他の学校と全く違う教育内容にはできないが、例えば英語の教師を増員して教育内容に特色を持たせたり、9年間の系統的なつながりのある指導ができることで、先進的な取り組みができる」との答弁がありました。

高梁認定こども園(仮称)施設整備事業

就学前教育・保育の拠点施設として、基本設計に取り組むための費用1900万円が計上されています。

交流人口の増加につながる」という説明がありました。補助金頼みの観光振興に陥らないよう、一つでも多くの日本遺産のストーリーが活用され、地域活性化の推進が図られるこ

経費削減を見込んだ整備を進める

高梁認定こども園(仮称)に関しては、令和2年7月、8月、11月に議会全員協議会において報告されました。7月と8月には市街地における整備について5カ所の候補地が提案され、場所だけでなく、財源などの議論が交わされました。11月には保護者や地域団体の代表者、就学前施設で勤務する職員からの意見を取り入れた比較検討結果が示され、「高梁城南高校運動場の東側を建設場所とした」との報告を受けました。

令和3年度予算においては、基本設計に取り組むための費用1900万円が計上されています。高梁市公共施設等総合管理

とが、これからの吹屋地区には求められます。議会でも、完成間近の旧吹屋小学校の視察、住民との対話等を通じて見守っていきたいと考えています。

計画では、公共施設等の維持更新に必要な金額と充当可能な金額を均衡させるためには、約40%の施設を縮減することが必要だとされています。この計画との整合性については、成羽こども園を例に、「延床面積、運営費においても現状より縮減が計られる見込みである」との説明を受けました。



高梁認定こども園(仮称)建設予定地

経済対策

商品券



感染症予防

ワクチン



新型コロナウイルス感染症

令和3年度予算でも 予防と経済の両立を目指す



いまだ猛威を振るう新型コロナウイルス感染症。3月議会で審議された令和2年度補正予算と令和3年度予算の中から、新型コロナウイルス感染症に関する予算審議を取り上げます。

キャッシュレス決済ポイント還元事業や ワクチン事業に多くの質問

新型コロナウイルス感染症による景気の後退は市財政にも影響を与えており、令和3年度予算では地方に配分される消費税や、観光施設への入場料減といった数字に表れています。逆に令和2年度補正予算に計上された「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」2億1500万円など国からの支援による増額もあり、限られた財源の中で、いかに市民生活への影響を少なくするかを試行錯誤しつつ、さまざまな事業が執行、または予定されています。

令和2年度補正予算の質疑では、売りに上げに影響を受けた中小企業への支援金である「中小企業等事業継続支援金」の2400万円が使われなかった理由について質疑があり「売りに上げが20%以上減少した事業者への交付を想定していたが、収益が

減少した事業者が予想よりも少なかった」という答弁がありました。

令和3年度予算には、新型コロナウイルスワクチン接種や、学校や文化施設の防疫に関する予算が計上されています。同時に、「キャッシュレス決済ポイント還元事業」に1億円が充てられます。「この事業については、近隣市とかぶらない日程で実施を考えている。また、もし期間内に予算を使い切った場合には、国の新型コロナウイルス対策費を利用し、補正予算で対応する」という答弁がありました。議員からは、参加する事業者に対して、多くの営業の電話がかかってくるなど、店が迷惑するような事象も起こりえるため、しっかりと制度設計を願うという要望がありました。

令和2年度補正予算

歳入	「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」	2億 1527万 3000円
歳出	「指定管理施設事業者支援金」 新型コロナの影響で施設運営に影響を受けた指定管理事業者への支援金	2175万円
歳出	「教育用備品購入費」 小・中学校に新型コロナ対策の備品を購入	5484万 3000円

令和3年度一般会計予算

歳入	「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」	1億 9454万 5000円
歳入	「新型コロナウイルスワクチン接種委託料」	1億 5117万 9000円
歳入	「新型コロナウイルスワクチン接種者移動支援委託料」	1000万円
歳出	「キャッシュレス決済ポイント還元事業」	1億円
歳出	「マイナンバーカード普及促進事業」	3010万円

主な新型コロナウイルス感染症関連予算



新消防庁舎建設

基本設計と実施設計を どちらも令和3年度内に実施

災害対応の拠点となる新消防庁舎建設に関して、令和3年度予算においては、基本・実施設計委託料として1億2083万5000円、測量設計委託料として940万円、工作物等移転補償費として1764万2000円が計上されています。

動き出した新消防庁舎 今後のスケジュールはどうなるのか

令和2年6月の消防庁舎検討委員会にて候補地（川端町地内）が決定し、7月の議会全員協議会において説明がなされた新消防庁舎整備事業が令和3年度予算に計上されました。

新消防庁舎は大災害時でも消防機能を発揮できるのか

予算審議の中では、「基本設計と実施設計の予算が一緒に計上されているのに疑問を感じる」、「合併特例債の期限、令和6年度までに完成させねばの思いが強いのではないか」、「特例債は有利といえども借金なのでしっかりと検討をお願いします」といった意見が出されました。

執行部からは、「事業を進めていく手法において理解をいただくのに少し足りなかった面はあるかもしれないが、合併特例債の終期をにらんで事業を進めていきたいと考えている」との答弁がありました。

新消防庁舎の建設予定地は、新しいハザードマップによると、一部が土砂災害警戒区域に入っており、また数10センチの浸水が想定されておりますが、基本設計において対応が検討されます。このことを懸念する声については、「新消防庁舎は強固な建物なので、消防機能が失われることはない」という答弁がありました。

災害時の拠点となる消防庁舎。四方を山に囲まれた高梁市の地形的特徴を考えると、ここがベストだといえる場所は、ないのかもしれませんが、しかし、基本設計と実施設計を行っていく過程では、より丁寧な説明が求められていきます。議会としても、今後も議論を深めていきます。



新消防庁舎建設予定地

基本設計 法律に基づいてデザインなどを決める大まかな設計
実施設計 細部まで詳細に決めていく、実際の作業に使用する設計



高梁GIGAスクール スタート！

高梁市立の小中高校（小15校、中6校、高2校）において、国のGIGAスクール構想により、児童生徒への一人1台のタブレット端末環境が整備されました。

高梁市では、令和2年度は、教師用のデジタル教科書のみの導入ですが、ICTを活用し、学校における教育の質をより高めていく上で、学習者用デジタル教科書の導入について活用も研究していきます。

児童生徒への影響は

学習内容はどんどん増え、端末を注視する時間が長くなることにより、児童生徒の心身の健康への影響も考えなければなりません。

端末を児童生徒の家庭に持ち帰らせるには、家庭の通信環境の整備が必要です。また数年先の端末の更新費用の負担についても考えていかななくてはなりません。

学校ではどうか

学校現場も対応に追われていきます。業務の多忙化のなか、教師の指導力の向上も課題です。

ICT環境の整備や授業支援のために、支援員が配置されています。今後ICT環境適応への積み重ねが必要です。

GIGAスクールにより

デジタル教科書には、直接自分の考えが書き込め、それをグループ学習や学級全体で共有し、発表したりすることができるという利点があります。

令和3年度には、端末で使用する電子ドリルの導入や、電子黒板の配置が計画されています。

GIGA スクール構想

1人1台端末の導入を終え、新年度予算ではアプリケーションソフト（電子ドリルなど）の導入、スクールサポーターの拡充として747万3000円が計上されています。

国民健康保険事業調整基金は約4億4千万円 保険税率は据え置きに

高梁市は特定健診受診率が低く、重症化した生活習慣病の医療費が高額になる傾向があり、1人当たり医療費は、県内第1位と高水準です。

国保制度改革後は、市は県が示す納付金の必要額を確保できるよう予算編成を行っており、令和3年度についても、前年度の状況や今後の見込みに基づいて加入者の保険税を

算定しました。その際、

前年度繰越金が約900万円以上ありまし

たが、これを国民健康

保険事業財政調整基金

に積み立てることとし、

加入者が負担する保険

税率は変更しませんでした。元来本市は自主

財源に乏しく、今後も

新型コロナウイルス感

染症等のために先行き

不透明で、保険税収入

の確保が不確実な状況である

こと、生活困窮や被災などの

ため保険税を納めることが困

難な加入者に対しては今後も

保険税減免措置が講じられて

いることによるものです。

これに対して、国保加入世

帯の税負担は増加していま

す。今回の積み立てにより4

億4000万円を超えること

になるので、基金の積み立て

よりも市民負担の引き下げを

求める立場から、3人の議員

が議案に反対しました。

国民健康保険税

（国保の背景や今後の医療費の動向も踏まえながら）必要額を確実に確保できる保険税率を想定。

国民健康保険の状況推移

	被保険者数	年度末基金残高	保険給付費
H20年	9,214人	5億3647万円	27億4531万円
H22年	8,714人	2億8878万円	29億1569万円
H24年	8,221人	2億2930万円	29億 858万円
H26年	7,726人	1億8168万円	29億 359万円
H28年	7,174人	3194万円	28億6051万円
H30年	6,537人	2億7202万円	26億4897万円

防災復興

平成30年7月豪雨災害から約3年が経ち、高梁市復興計画の復興期に移行します。高梁市は新たな計画として、災害時の避難行動を迅速に進めるため、危険区域や避難場所を表示したハザードマップを作成。浸水被害が多かった広瀬地区には緊急避難施設整備に取りかかります。また、整備を計画している内水排除用「落合雨水ポンプ場」は、平成30年7月豪雨時の雨量に対応できるものとして設計を進めています。外水（高梁川・成羽川からの流入）については、「県事業と併せて堤防のかさ上げ、河川しゅんせつなど、併せて行う必要がある」と市長が答弁しましたが、これも県が策定する河川整備計画が基本となり、完成時期は未定です。線状降水帯やゲリラ豪雨による甚大な被害が多い近年、早急な完成が望まれます。

討 論

反対討論

石部 誠

議案6号、15号、48号、61号、62号について反対とし、他の議案には賛成の立場で討論を行う。議案6号は各種指定管理先33カ所が一括で提案されている。それぞれ当該委員会で審議されるべきである。

議案15号「介護保険」の保険料値上げに反対する。議案48号・62号は「国民健康保険特別会計」で、国保財政は不安定要因があるにしても、必要以上の基金積み立てを行わず、国保税の引き下げを求め反対する。

「令和3年度高梁市一般会計予算」については、市民の生活は年金や社会保障の切り下げなどで大変であり、非正規雇用が増え貧困化が進んでいる。吉備国際大学や図書館の委託料などを優先的に予算組せず、市民生活を増進し、市民の毎日の暮らしを応援すべき。商品券の領布や、市内でのキャッシュレス決済での割引では、商店は登録業者のみ、購入者側もスマホ決済ができる方のみ支援となっている。

消防庁舎の移転については、今議会に基本設計と実施設計についての予算が提案されている。短時間での施工には危惧を感じる。

賛成討論

金尾恭士

議案1号から76号まですべての議案について賛成の立場で討論を行う。

この度の人事異動では、女性管理職に部長級1人、次長級2人、管理職175人中50人で、28・6%の割合。2020年までに指導的地位の女性を30%にするという目標に近い数字であり、更なる伸長、民間企業への波及を望みたい。

「高梁市総合計画」、「第3次高梁市教育振興基本計画」がスタートする。市民の幸せのため確実な執行を要請する。「健幸都市たかはし」の実行には誠（言ったことを成す）が重要であると考える。議案8号・9号では施設の廃止条例が上程された。利用者の減少、老朽化などで公共施設の廃止は避けて通れない問題であるが、住民とのコンセンサス（合意形成）を図ってもらいたい。

「だれ1人取り残さない」SDGsの精神を中心に据えて、「高梁市総合計画」を羅針盤として、3万人の市民を乗せた船の航海が始まる。10年後、豊かな夢の島に上陸できることを祈念する。

3月定例会で賛否が分かれた議案の議決結果

○：賛成 ●：反対 欠：欠席

議案番号	件 名	金尾	平松	新倉	小柴	伊藤	森	森上	石井	石田	石部	三村	宮田好	小林	倉野	川上修	川上博	大月
6号	指定管理者の管理の期間の特例の廃止等に伴う関係条例の整備に関する条例	○	○	○	欠	○	○	●	○	○	●	○	○	●	○	●	●	○
15号	高梁市介護保険条例の一部を改正する条例	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○
48号	令和2年度高梁市国民健康保険特別会計補正予算（第3号）	○	○	○	欠	○	●	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○
61号	令和3年度高梁市一般会計予算	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○
62号	令和3年度高梁市国民健康保険特別会計予算	○	○	○	欠	○	●	○	●	○	●	○	○	○	○	○	○	○

※議長は採決には加わりません。 ※他の議案は全会一致で可決しました。

議会ICT化推進特別委員会報告

議会ICT化に向けて、

「高梁市議会ICT推進基本計画」を策定

平成31年3月に特別委員会を設け、置いて以来、グループウェアの試行、パソコンやタブレット端末の議場や委員会室への持ち込み、先進的な取り組みの研修などを行ってきました。令和2年度では、「高梁市議会ICT推進基本計画」を策定し、導入端末や議場などへのWiFi設置を決定しました。

計画策定過程では、何のためのICT化なのかということが議論となりました。最終的には「議会基本条例が目指す、市民に開かれた議会のなお一層の実現」、「議会の効率化、情報伝達の迅速化」、「議会活性化」、「大規模災害や感染症拡大に備えた危機管理体制の強化などにより、さらなる議会改革の推進」が目的です。その有効な手段の1つとして、議会におけるICT技術の積極的な活用を推進していくことが定められました。

また、この計画と同時に「高梁市議会の情報通信機器使用基準」を策定し、無秩序な電子機器の使用やインターネットの利用を防止することになりました。

3月定例会では、議会ICT化のための予算が可決され、令和3年度には、全議員がタブレット型端末を使用して議会活動を行う予定です。



▲導入予定のタブレット型端末

議会のあり方検討特別委員会報告

議員定数や議員報酬について

令和4年9月までに一定の結果を

この特別委員会は、市議会議員選挙が無投票になったことから、次代の議会を担う多くの立候補者があり、市民の福祉向上のため活動がしやすい条件の整備を視野に、将来に向けて議会が役割と責任を果たすべき姿を示すとともに、その実現にむけて、高梁市議会の議員定数、議員報酬などについて具体的な数字を出すために検討を進める目的で、令和2年12月に設置されました。

これまで5回の委員会を開催し、目指す議会像を「政策提言を行う議会（チーム高梁市議会）」とし、議会基本条例に掲げられている事項を基本に、1月に開催された議員研修会では、明治大学講師の廣瀬和彦先生による講話を参考とし、議員定数や議員報酬について、次期一般選挙の2年前の令和4年9月までに一定の結果を出すことをしています。



1月に開催した議員研修でも議会改革について勉強しました

委員会メンバー

委員長	宮田好夫
副委員長	川上博司
委員	倉野嗣雄
委員	三村靖行
委員	石部 誠
委員	石田芳生
委員	石井聡美
委員	伊藤泰樹

一般質問 ここを聞きました!

小林重樹

- ・高梁市総合計画基本構想について
- ・ふるさと納税について

川上修一

- ・新型コロナウイルスワクチン接種について
- ・合併特例債について
- ・人口減少対策について

伊藤泰樹

- ・高齢者見守りについて
- ・水道管の凍結による破裂事故について
- ・高梁市行財政改革プランについて

森上昌生

- ・駅前複合施設について
- ・旧高梁市健康増進施設「朝霧温泉ゆ・ら・ら」跡地活用事業について

宮田好夫

- ・就学前の子どもについて
- ・公共交通について
- ・産業廃棄物について

金尾恭士

- ・川上畑地かんがい施設の現状と持続可能な管理運営について
- ・川上医療センターについて
- ・福祉行政について
- ・教育行政について
- ・新型コロナウイルスワクチン接種に対する市の対応について
- ・高梁市総合計画前期基本計画について

平松久幸

- ・平成30年7月豪雨災害の対策について

川上博司

- ・新型コロナウイルス感染症のワクチン接種について

新倉 淳

- ・消防団、消防本部について
- ・本市の農業について
- ・公共交通について

石田芳生

- ・高梁市総合計画について
- ・医療、介護について
- ・障害者福祉について
- ・教育について

石部 誠

- ・新型コロナウイルス感染症への対応について問う
- ・トイレのまちづくりについて問う
- ・阿部地区井谷ハイツの陥没について

三村靖行

- ・小中学校のいじめ問題対策について
- ・新型コロナウイルスワクチン接種について
- ・老朽空き家対策について

森 和之

- ・防災対策について
- ・学童保育について
- ・公共交通について

小林重樹 議員

市職員採用に地元定住枠を

高梁市総合計画基本構想について

小林 高梁市総合計画基本構想の最も重要な施策は何か。

市長 次期総合計画は人口というキーワードなしには語れず、まち・ひと・しごと総合戦略では2030年に2万5千人の人口目標を立てている。人口は生活にも財政にも直結するものであり、定住という政策課題が重要である。

小林 本市出身者が大学卒業後、地元就職を希望しても就職先が限られている。市職員採用において地元定住枠を設けられないか。

市長 本年度採用試験に定住・移住枠を新設した。採用後は高梁に住み続け、高梁市民のために働くことが条件であり、2名が採用予定である。

ふるさと納税について

小林 市外から通勤している市職員に、ふるさと納税の協力を要請しているのか。また市外からの通勤職員と、ふるさと納税者数は。

市長 市の正規職員は640人で、そのうち144人が市外より通勤しているが、それには色々な事情があると思う。また年2回のお願により、31人の職員が40件のふるさと納税をしている。

小林 この数値についてどのような思いがあるか。

市長 職員として働き、そして市民サービスを提供すると同時に、市民の皆様の納税によって職員の給与も賄われている。そのことは職員に理解していただきたいという思いもあり、なお一層の呼びかけを行っていく。

川上修一 議員

周辺地域を見捨てない市政を

新型コロナウイルスワクチン
接種について

川上 65才以上の高齢者の対応と周辺地域への対応はどのようにするののか。

健康福祉部長 接種スケジュールが決まったら、対象者全員に接種券、クーポン券を送付する。その

中に接種できる市内約20医療機関や、市内2会場集団接種会場案内を同封する予定。基本的には皆様の希望の医療機関に予約をしていただく。また交通手段は、タクシー支援の制度を活用していただく。

立地適正化計画と
周辺地域の過疎化について

川上 立地適正化計画（コンパクトシティ）により、周辺地域の過疎化が一気に進んだが、この状況をどう考えているのか。

市長 高梁市が取り組む立地適正化計画は、地域の個性をつなぐ、そして活力ある持続可能なまちづくりを掲げている。住民の皆様が住まわれているところを、そのエリアの中心地域が、移動手段を含めしっかりと結ばなければならぬ。

合併時、皆様の協議でいただいた新市建設計画にも基づき、その流れは含んでいる。高梁市ではそれをもっと大きくした形で地域を連結する形のまちづくりを計画している。

川上 備中町の一次産業の復活をどう考えているのか

市長 備中地域の方向性は基幹産業である農業を主体に考えている。後継者不足などによる耕作放棄地を解消する形で、備中地域の新規就農者のために営農団地の整備を進めている。

伊藤 泰樹 議員

超過勤務の認識を改め
業務改善と業務管理を

高齢者見守りについて

伊藤 「高齢者等見守り体制整備事業」の普及率が低い。

健康福祉部長 関係機関の協力を得ながら、広報紙やホームページを活用して、積極的に勧奨したい。

伊藤 介護を前提とした移住・定住に対して支援できないか。

総務部長 関係部署がしっかりと連携して支援していきたい。

伊藤 年代層を問わない、切れ目の無い支援を強く要望する。

水道管の凍結による
破裂事故について

伊藤 誰もが得をしない水道管の破裂事故に、市と市指定業者が協力して対策を打てないか。

産業経済部長 凍結予防対策の周知を図りたい。

伊藤 市指定業者との検討・研究を強く要望する。

行財政改革プランについて

伊藤 行財政改革プラン最終年に向けた意気込みは。

市長 まだまだできていない部分もあるので、第3次が終了したら検証し、通常の行政を進めていくのと同時に、次にどういう手当てを打っていくかを考えていく。

森上昌生 議員

駅周辺の活性化につながる施策を

駅前複合施設は、
駅周辺活性化にどの程度
寄与しているのか

森上 駅前複合施設は駅周辺の活性化に寄与しているのか。

政策監 事後評価の結果、歩行者20%、自転車5%の交通量が増加した。CCCの来館者アンケート調査では、60%が変化を感じ、40%が賑わいを感じているとの結果であった。

森上 栄町商店街では、相次いで2店のスーパードが閉店した。これは駅周辺の活性化とは逆の状況である。駅前複合施設は駅周辺の活性化が目的に挙げられていたが、これを執行部はどう捉えているのか。

政策監 図書館に來られる方は半



分が市外の方なので、直接店舗の閉鎖とは因果関係がない。

森上 駅周辺の活性化に直接つながる施策を考えてもらいたい。

「朝霧温泉ゆ・ら・ら」が2回にわたり休館に至った経緯は

森上 当時の突然の休館、管理者の契約解除、そして再開後急速に経営が破たんした経緯について分かりやすい説明を。

政策監 当初、株式会社朝霧が管理運営したが、契約期間満了に伴い、市の条例で管理者を公募した。その後、選定委員会により有限会社トラベルシリウスを指定管理者とした。

宮田好夫 議員

雇用不安を感じさせない交通政策を

就学前教育の現状について

宮田 昨年度の出生数が137人と、20年間でほぼ半分になった。幼稚園・保育園の現状はどうか。

健康福祉部長 園児が3人以下で休園・廃園となる。合併以降に、10園が対象となった。

宮田 遠距離通園もあるが、スクールバスは考えられないか。

健康福祉部長 送迎時、保護者との情報交換も重要であり、考えていない。

公共交通について

宮田 公共交通の現状はどうか。

市民生活部長 路線バス28系統のうち13系統が収支率3割以下、内4系統が1割以下となっている。生活福祉バスと乗合タクシーは10年前に比べ約1万5千人減となった。

宮田 利用率の低い所の対応はどうするのか。

市民生活部長 出向いて意見・要望を聞く。改善しない場合にはタクシー助成に切り替える。

宮田 公共交通で多くの方が働いている。雇用不安を生じさせない対応を要請する。

市長 交通計画を進めるにあたり、雇用を守るという視点も織り込まなければならない。

産業廃棄物処分場について

宮田 吉備中央町で新たな管理型最終処分場が計画されているが、情報はあるのか。

市民生活部長 県へ問い合わせると、申請は出ていないとあった。

宮田 処分場から出る水は有漢川に流れ込み高梁川と合流する。新たな不安が生じているので、市としても県に働きかけてほしい。



金尾 恭士 議員

持続性のある畑地かんがい施設に

川上畑地かんがい施設について

金尾 利用面積の減少、施設の老朽化に伴う今後の管理運営をどう行うのか。

産業経済部長 トマト・ブドウなどの栽培にはなくてはならない施設。大竹ダムから高山の貯水池まで水道施設も兼ねている。消火用水源としても使用される。大規模な更新に取り組む場合は、財政的に支援していく。

川上医療センターについて

金尾 西部地区における持続可能な今後の医療のあり方についての考えを問う。

副市長 地域医療がまちづくりにつながる、住民の意識が上がり、地域医療への厚い信頼につながっ

ている。市としては十分に配慮しながら、持続可能な医療が続けられるよう支援していきたい。

ひきこもりについて

金尾 ひきこもっている方の状況把握と、具体的な支援策を考えているのか。

健康福祉部長 令和元年度に125名を把握している。寄り添い、理解を深め、関心を持つていくために、広報もしていく。また、サポーターの人材養成は、吉備国際大学、社会福祉協議会、民生委員など関係機関と連携していきたい。^(※)地域活動支援センター型との関連を含め、考えていきたい。

※地域活動支援センター型 精神保健福祉士など専門職員を配置し、創作活動、生産活動の機会を提供。社会との交流や結びつきを行う事業。

平松 久幸 議員

落合雨水ポンプ場の1日も早い完成を

防災について

平松 落合町阿部地区、玉川町玉地区、松山広瀬地区への防災をどのように考えているか。

政策監 阿部、玉、広瀬地区では被害が甚大で、河川からの浸水、内水の被害もあった。抜本的に対策するには河川改修工事。内水排除は整備が必要。洪水対策は県が策定している高梁川中上流プロジェクト河川整備計画の中で行われる。この計画で2年前と同等の出水があっても浸水被害の解消または軽減が図られる整備を計画している。

平松 県策定の河川整備計画はいつ頃完成するのか。

政策監 昨年3月に素案はできたが、新型コロナの関係もありいつできるかは明確でない。

落合雨水ポンプ場について

平松 落合雨水ポンプ場は30年7月豪雨相当の雨量に対応可能か。

市長 新年度予算に計上している。落合地区の内水排除は、降雨量1時間53mmを想定している。30年7月豪雨は35mmであった。河川からの越水があったので浸水被害が広まった。外水（河川の氾濫）の影響は設計に反映できていない。

平松 外水を想定した排水量に見直してもらいたい。

市長 外水がどれくらい来るのかは想定が難しい。それよりは、県事業の堤防の整備など、併せて行うことが必要。かさ上げは今も強く要望している。

平松 1日も早いポンプ場整備を強く求める。

川上 博司 議員

ワクチン接種計画の迅速な策定を

新型コロナウイルスワクチン接種について

川上 接種計画の策定が必要であるが、どのように進めているのか。

健康福祉部長 接種計画の概要は実施期間、対象者、医療従事者などの確保、接種者の安全性の確保等となっており、医師会との協議を進め、準備している。

川上 市民はどのようにして、接種できる医療機関や接種会場を選ぶことができるのか。

健康福祉部長 接種券を送付する際に、接種機関の一覧表を同封する。新型コロナウイルス感染症ワクチンは数量、取り扱いに制約があることから完全予約制で対応する予定で、希望の医療機関で申し



込むことになるが、かかりつけ医がある方はそちらで接種していただきたい。

川上 個別接種が原則とのことだが、集団接種とどのように組み合わせるのか。

健康福祉部長 個別接種だと副反応の対応が迅速にできるので原則としている。しかし、全市民を対象とした接種となるので、個別接種を補完する形で、かかりつけ医がない方を対象として日曜日に集団接種を行っていきたい。



新倉 淳 議員

「冬どり玉ねぎ」の普及に継続的実証栽培を要望する

本市の農業について

新倉 新規作物「冬どり玉ねぎ」の実証栽培の取り組みと、導入までの経緯を問う。

市長 平成27年から、協定に基づいて実証栽培を始めている。冬場の農閑期に収穫できる補幹作物として、農家の所得向上につながるかと考えている。冬取り玉ねぎは甘味もあり、食味も良く非常においしく、希少な品であると認識している。

新倉 平成27年度から計6回実証栽培を行ったが、初期の頃は育成不足のため失敗もあったと聞いている。成果が出たのはここ数年であり、実証栽培も終了と聞くが今後の事業継続の見込みは。



市長 市の広報紙などを活用して、市民の皆様方に「冬どり玉ねぎ」を周知していく。今年度、実証栽培参加者のアンケート調査を実施し、その結果と合わせて作業ごよみを作成する。多くの市民に「冬どり玉ねぎ」を栽培していただきたいと考えている。

新倉 市長の答弁と重複するかもしれないが、市民にもっと周知してほしい。そして実証栽培の継続を求めるとともに新規の方にセツト球（子球）の無料配布を要望する。どんな作物でも長い年月をかけて定着させれば、産地形成がなされるものと思う。そして、農政全般において、より一層の行政のバックアップを切望する。

石田 芳生 議員

就労や災害地の避難など 障害者を取り残さない社会を

障害者福祉について

石田 障害のある方の就労支援、職場の障害者理解についてどのように取り組むのか。

市長 障害のある方やその保護者の不安は重く受け止める。特に就労については仲介を支援し、就労面談会を通じて相互理解を深める取り組みをしていく。また、令和3年度、たかはし障害者総合支援センターとたかはし障害者就業・生活支援センターを一カ所に統合して、密接な連携を図る。

石田 防災や災害時の避難場所や方法は、障害者に十分周知できているのか。

市長 災害時には、自立支援協議会の協力を得て、障害のある方と連絡を取っている。

石田 消防団や町内会など、障害

者を取り巻く人が、その情報を知ることができなければいけないのではないか。

市長 個人情報が含まれているので、障害者本人や家族の理解を得ることができれば、前もって対応することができ。今後、民生委員とも情報共有を図りたい。

市内の県立高等学校について

石田 市内中学校卒業生数は年々減少している。今後の県立高校再編整備にどう対応するのか。

教育長 人生で一番多感な時期を、高梁市で過ごすことは大切なことである。県立高校ではあるが、市としてもしっかりと支援していく。地域学習や市内小中学校との交流を通じて、さまざまな体験をしてもらい、それを中学生の市内高校進学につなげていきたい。

石部 誠 議員

備中高梁駅ホーム内に公衆トイレを

高齢者や障害者に 配慮した接種体制を

石部 新型コロナワクチン接種は、高齢者や障害のある方など、会場に行けない方に配慮すべき。

健康福祉部長 ワクチン接種は取り扱い上さまざまな制約があるが、医療機関などと検討し調整を図りたい。

石部 ワクチン接種後のタクシー補助は、希望者に対し市内のタクシー台数では、送迎不可能で制度として成り立たないのでは。

健康福祉部長 タクシー台数に限りがあり利用できない人が出てくる可能性はある。運転免許を持つていない方や運転に不安のある方に御利用いただく。

トイレの まちづくりについて

石部 観光地型のトイレは洋式化など整備が進んでいるが、体育館やコミュニティ型のトイレの整備は遅れているのではないか。

副市長 経済効果もあり地域振興に貢献するトイレが先行するが、コミュニティ型のトイレをおろそかにはしない。

石部 数千万円もかけたトイレ整備でなく、十数万円の改修改善や清掃を。また、備中高梁駅ホームにはトイレがなくて不便。ホームまたは東西連絡道にトイレを設置できないか。

産業経済部長 緊急時は駅社員用トイレの借用は可能。電車車両のトイレも利用してほしい。今後のトイレ整備の計画はない。

三村 靖行 議員

ワクチン接種タクシー助成は 往復無料にすべき

小・中学校の
いじめ問題対策について

三村 いじめを防止する対策や取り組み状況を聞く。

教育長 児童生徒が安心・安全に学校生活を送るための対策としてアンケート調査を行い、早期発見に努めている。教育委員会では大学教授、警察、児童相談所、PTAの代表者で年2回委員会を開催して防止に努めている。

三村 解決しているのか。

教育長 ほとんど解決しているが一部、複雑な背景の問題もあり、長引いていることもある。被害児童を守ると共に、加害児童に対しても、学校だけでなく教育委員会、警察、弁護士にも相談し、考

えられる対応を整理して共通理解のもと解決に向け取り組んでいる。

新型コロナウイルスワクチン
接種について

三村 高齢者の接種医療機関へのタクシー補助を全額にできないか
健康福祉部長 個人の支援になるので全額は無理である。市内タクシーにも限りがあり予約が殺到することも考え復路補助とした。

老朽空家対策について

三村 景観保全にも悪い老朽空家は、早急に対応すべき。
市民生活部長 個人の資産でもあり適切な管理が必要。解決に向けて所有者へ働きかけている。

森 和之 議員

買い物難民は市街地でも増えている

防災対策について

森 河川しゅんせつと樹木伐採は継続的に行うべきではないか。

政策監 樹木伐採は岡山県河道内整備実施計画の中で2024年まで県が実施していく。市としても成羽川を含めた高梁川本流、支流について、土砂の堆積箇所を明記して掘削を要望する。

森 完成するまで30年も掛かる河川整備計画だが、どのように住民に情報を発信するのか。

市長 一日でも早い着手を国・県に対して要望している。国・県・中国電力との協議内容や整備の進捗状況を、住民の方にはしっかりと説明し情報も発信していく。

学童保育について

森 定員数の見直しや施設改修が必要ではないか。

市長 施設改修というハード面に關しては、対応が必要であればしていく。並行して、支援員の確保を行っていく必要があると認識している。

公共交通について

森 バスだけにとらわれない、市街地の公共交通網の整備が必要ではないか。

市民生活部長 平成22年10月から1年間、市内循環バスの南回りの実証運行を行った。当時と事情が大きく変わっており、今後どういった移動手段を確保していくかは、全国の取り組み事例を研究して、交通事業者と協議をしていく。

6月の定例会スケジュール

6/11	金	本会議（議案の上程）
6/17	木	本会議（一般質問）
6/18	金	本会議（一般質問）
6/21	月	本会議（一般質問）
6/22	火	本会議（議案質疑）
6/23	水	委員会
6/24	木	委員会
6/25	金	委員会
6/30	水	採決

※6月議会への請願の締め切りは

6月3日木までです

※日程は変更となる場合があります。正式な日程は決まり次第、ホームページでお知らせいたします。

おわび



第45号議会だより表紙に写っている児童について、玉川小学校の『4年生、5年生』としておりましたが、正しくは『3年生、4年生』の誤りでした。おわびして訂正いたします。

編集

委員	委員	委員	委員	委員	委員	副委員長	委員長	議会広報公聴特別委員会
員	員	員	員	員	員	森 和之	伊藤泰樹	
平松久幸	新倉 淳	金尾恭士	石井聡美	石田芳生	石部 誠			

議会広報公聴特別委員会



先人が残した川上地域の農業施設

「こんな山の上で農業用水がふんだんに使えるのは、大変ありがたい」新規でトマト農家として頑張っておられる方の声です。

川上畑地かんがい事業は、「畑作地帯の土地改良および用水水源施設を新設して、生産基盤の確立と農業所得の向上を図る」ことを目的として、昭和48年から約15年の長きにわたって工事が行われました。

川上地域の水がめである大竹ダムが昭和55年に完成し、続いて町内を張りめぐらす配管工事が実施され、200ヘクタールの畑を潤

し、関係戸数は612戸になりました。

時代も移ろい、35年が経った現在では、耕作地は157・3ヘクタール、関係戸数は482戸となっています。耕作放棄地や空き家も増加しています。

現在は高梁市特別会計で管理運営をしています。畑地かんがい施設は、高梁市川上地域における最も重要な施設のひとつです。持続可能な農業のためにも、農業の発展や、新規就農定住者の方にお越しいただくためにも、地域には必要な農業施設です。

今号の表紙

子供神楽発表会

令和3年3月20日、たいこまるプラザ伊藤記念ホールにおいて、2年ぶりに子供神楽発表会が行われました。

発表会は、地域の3団体20名の児童・生徒によって、一年間の集大成として、7つの演目が披露されました。

ある演目は小学生の愛らしさを感じるものであったり、ある演目は大人顔負けの迫力を感じるもの、そして滑稽な掛け合いで聴衆を笑わせるものと、午前9時から始まり約3時間の発表会は、見るものに感動を与えるものでした。表紙は、成羽備中神楽育成会による「祇園」の1場面です。

あ
と
が
き

風景も空気も初夏を感じさせる季節になりました。昨年度から続く新型コロナウイルス感染症は今年も市民生活に大きな影響を与えています。議会でも、常に化する状況を注視しつつ、緊張感をもってあたっています。

今年の入学生から高校の学習内容が変わり、「情報」が必須に科目になります。同時に小中高等学校には1人1台のデバイスを使った教育が始まります。これからの時代にふさわしい教育を子どもたちに与えることができるよう、未来を志向した学習環境の整備にも注目していききたいと思っています。

市民の皆様にも新しい生活様式への協力と、教育環境整備へのご理解をどうぞよろしくお願いいたします。
(石井聡美)